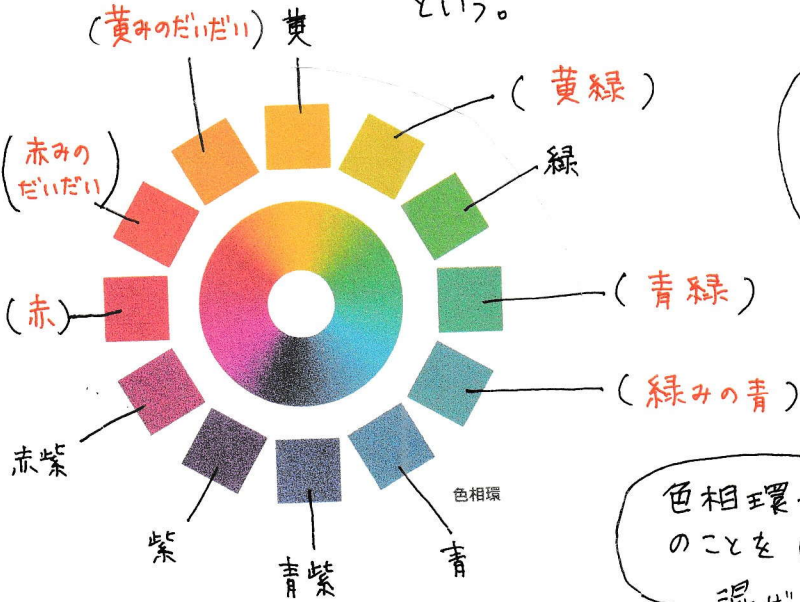


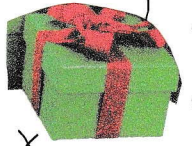
色相環

有彩色を色みの似ている順番に並べると一つの環になる。この環のことを(色相環)という。



それぞれの色相の中で、もっとも(彩度)の高い色を(純色)という
↓
各色相の代表色

色相環で向かい合う関係にある色のことを(補色)という
混ぜると(無彩)色に近い色になる。



- ☆ 純色に白だけが混ざった色を (明青色) という ... 澄んだ感じの色
- ☆ 純色に黒だけが混ざった色を (暗青色) という ... 澄んだ感じの色
- ☆ 純色に灰色が混ざった色を (濁色) という ... 濁った感じの色

お互いの色を引き立たせ、刺激的な感じになる
(例) クリスマスのカラー 赤と青緑

ある色をずっと見つめて、白の画面を見たときに、ある色の補色が残像となってぼんやり見える。これを(補色残像)という。



(色立体)

→ 色の三要素をもとにして、無彩色、有彩色、色相環、純色、明青色、濁色の関係を組み立てたもの